



2026 年 10 月 1 日

各 位

会 社 名 ポーターズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 西森 康二
(コード：5126、グロース市場)
問合せ先 取締役 天野 竜人
(Email: ir@porters.jp)

(訂正)「【補足資料】通期業績予想の修正および特別損失の発生見込みに関するお知らせ」の一部訂正について

当社は、2026 年 9 月 30 日に開示いたしました「【補足資料】通期業績予想の修正および特別損失の発生見込みに関するお知らせ」の一部に訂正すべき事項がありましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

「【補足資料】通期業績予想の修正および特別損失の発生見込みに関するお知らせ」の内容に一部誤りがあることが判明いたしましたので、下記の通り訂正いたします。

2. 訂正の内容

次頁以降のとおりです。訂正箇所には下線を付しております。

■ 訂正前

各セグメント毎の要因分析及び今後の施策

ポーターズセグメント

■ 要因分析

- 株式会社KIKAN flexのリリース延期に伴い、同時納品であったPORTERSシリーズの今期導入が消滅し、売上・利益ともに約40万円の減少
- 有効商談自体は継続して創出できている一方で、一部顧客に対する要件整理や意思決定者との合意形成に時間を要し、結果として納品の後ろ倒しが発生

■ 今後の施策

- 部署を横断したチームでの提案体制を構築することで、有効商談から納品までのスピードを加速させる

新規投資事業セグメント

■ 要因分析

- 株式会社KIKAN flexについて、ソフトウェア開発及び運営を進めてきたが、ソフトウェアの要件が想定以上に膨らみ、想定していた開発期間が当社予定より長引いた

■ 今後の施策

- 株式会社KIKAN flexの完全子会社化に伴い、機動的な事業推進を可能にする

■ 訂正後

各セグメント毎の要因分析及び今後の施策

ポーターズセグメント

■ 要因分析

- 株式会社KIKAN flexのリリース延期に伴い、同時納品であったPORTERSシリーズの今期導入が消滅し、売上・利益ともに約40百万円の減少
- 有効商談自体は継続して創出できている一方で、一部顧客に対する要件整理や意思決定者との合意形成に時間を要し、結果として納品の後ろ倒しが発生

■ 今後の施策

- 部署を横断したチームでの提案体制を構築することで、有効商談から納品までのスピードを加速させる

新規投資事業セグメント

■ 要因分析

- 株式会社KIKAN flexについて、ソフトウェア開発及び運営を進めてきたが、ソフトウェアの要件が想定以上に膨らみ、想定していた開発期間が当社予定より長引いた

■ 今後の施策

- 株式会社KIKAN flexの完全子会社化に伴い、機動的な事業推進を可能にする